



Christmas in Paris 2013年12月 パリのブランタンデパート 撮影:スマレ

全国のあけぼの会のみなさん、こんにちは!

ワット隆子

■カレンダーが最後の1枚を残すばかりになり、今日(12/9)、計算すると、あと500時間あまり、さみしいですね。あなたはこの1年バリバリ思う存分に生きましたか?それともちょっと足りなかったですか?悔いなく生きるのはむずかしい、来年に廻しましょう。

■さて、あけぼの会の2015年は、なんとと言っても「がん放置療法を考える」年でした。青年熱血医、勝俣範之先生の講演会を全国5ヶ所(福岡、静岡、神奈川、東京、栃木)で展開しました。がんは放置すればよい、などと無責任な暴言を吐いている、かの近藤誠医師に正々堂々と反論して、助かる命まで失う人をこれ以上見ていられない、と闘っている。あけぼの会は先生の医師としての使命感に突き動かされて、乳がん患者会として、はっきりした態度を示し、あえて火中の栗を拾う勇気を見せたかった。その義務があるのです。

■闘いは始まったばかり、2016年は賛同者(患者会・医療者、願わくば、日本乳癌学会も)を募って、今起きているがん治療の方向性を正していく運動を繰り広げたいと願っています。既にあけぼの会では勝俣先生の同意を得て「近藤先生による被害者の会」を提唱したのですが、誰も名乗り出てこない。名乗り出るには勇気が要ることもよくわかります。

■一般女性の間でも、近藤先生の本を読んで、それまで受けていた検診を受けないことにした人がいる。善良な人にまで百害を与える野蛮本がパカパカ売れて、日本は狂っている—

■私達は「一人の命を救う」運動を続けます。

CONTENTS

会長あいさつ●ワット隆子	1
秋の大会/素晴らしかった!・大会裏話	2
抗がん剤の晩期毒性●清水千佳子(週刊医学の歩み/医歯薬出版社より)	8
緩和ケアの探し方(がん患者のための緩和ケアの受け方より)	12
ホセ・ムヒカの言葉	16
ワット会長受賞! 毎日社会福祉顕彰	18
私たちこんな活動をしています/本田あけぼの群馬代表受賞!	22
会員分布図	27
〈あけぼの会〉変革の軌跡●ワット隆子	28
お便りから	30
がんと食(「がん治療」新時代より)	31
特報/秋の講演会(「がんの先進医療」より)	32
各県の活動予定(2016年1月~2月)	36